

AI/IoTセンサのしくみを知ろう(応用編)



徳島大学技術支援部常三島技術部門
技術専門職員 辻 明典 博士(工学)
E-mail: a-tsuji@is.tokushima-u.ac.jp

講座内容

▶ 講師：辻 明典（徳島大学技術支援部）

桑折 範彦（徳島大学名誉教授）

川上 博（徳島大学名誉教授）

▶ 土曜日：10:00～11:30

▶ 日程：

① 10 / 5 概要，環境設定，配布部品の確認

② 10 / 19 復習

③ 10 / 26 ロボットのモーター1（基本動作）

④ 11 / 9 ロボットのモーター2（応用動作）

⑤ 11 / 16 ロボットのセンサ1
（距離センサとモーター）

⑥ 11 / 30 ロボットのセンサ2
（フォトリフレクタ）

⑦ 12 / 7 ロボットの制御1
（ライントレース1）

⑧ 12 / 14 ロボットの制御2
（ライントレース2）

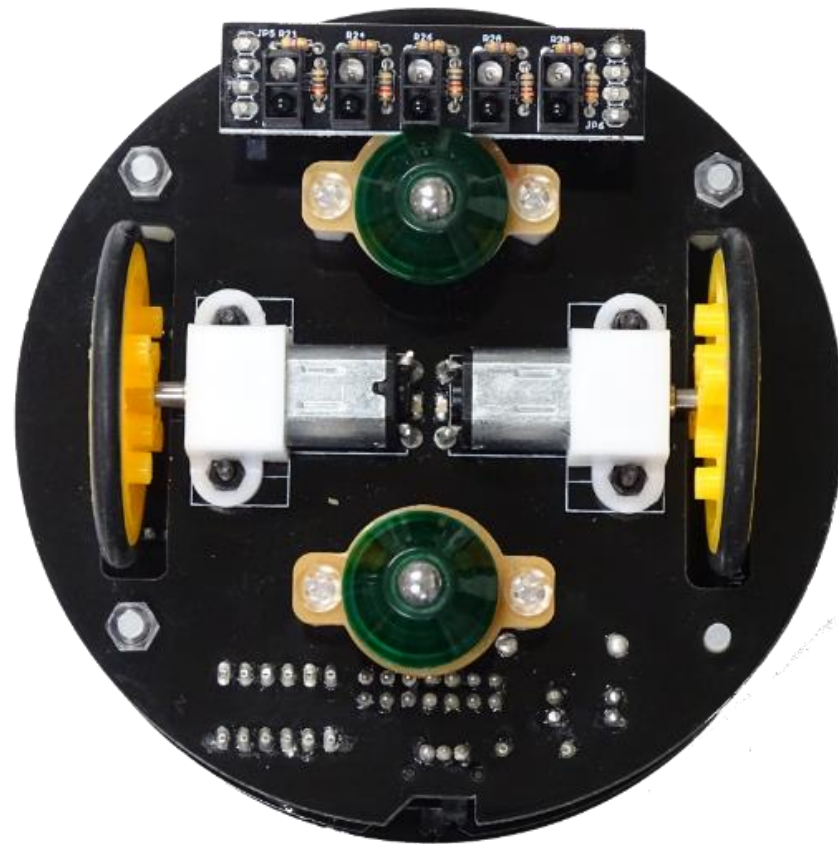
⑨ 12 / 21 ロボットの制御3
（迷路探索）

フォトリフレクタの取り付け

- ▶ ロボットにフォトリフレクタを取り付け
※ 取り付け向き注意



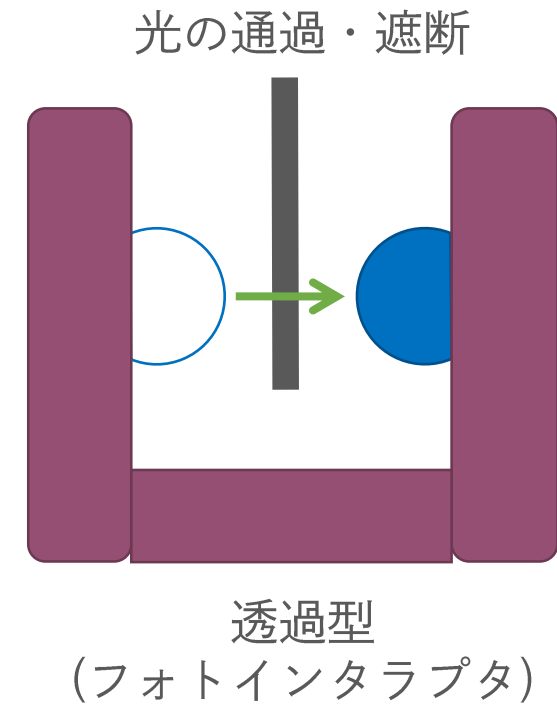
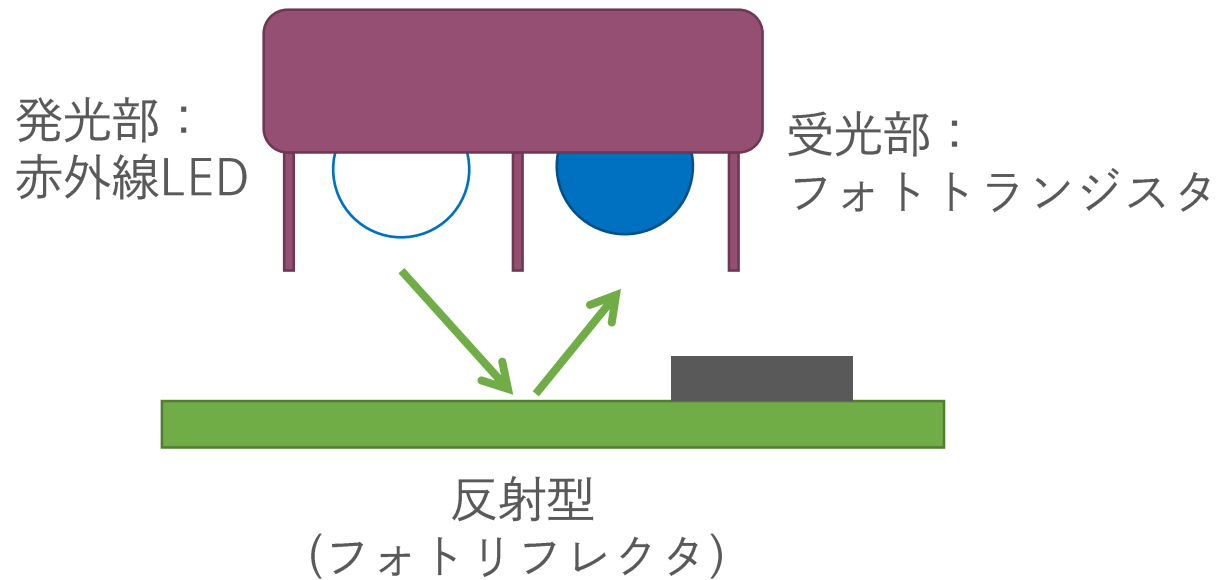
フォトリフレクタ



取り付け向き(ロボット裏)

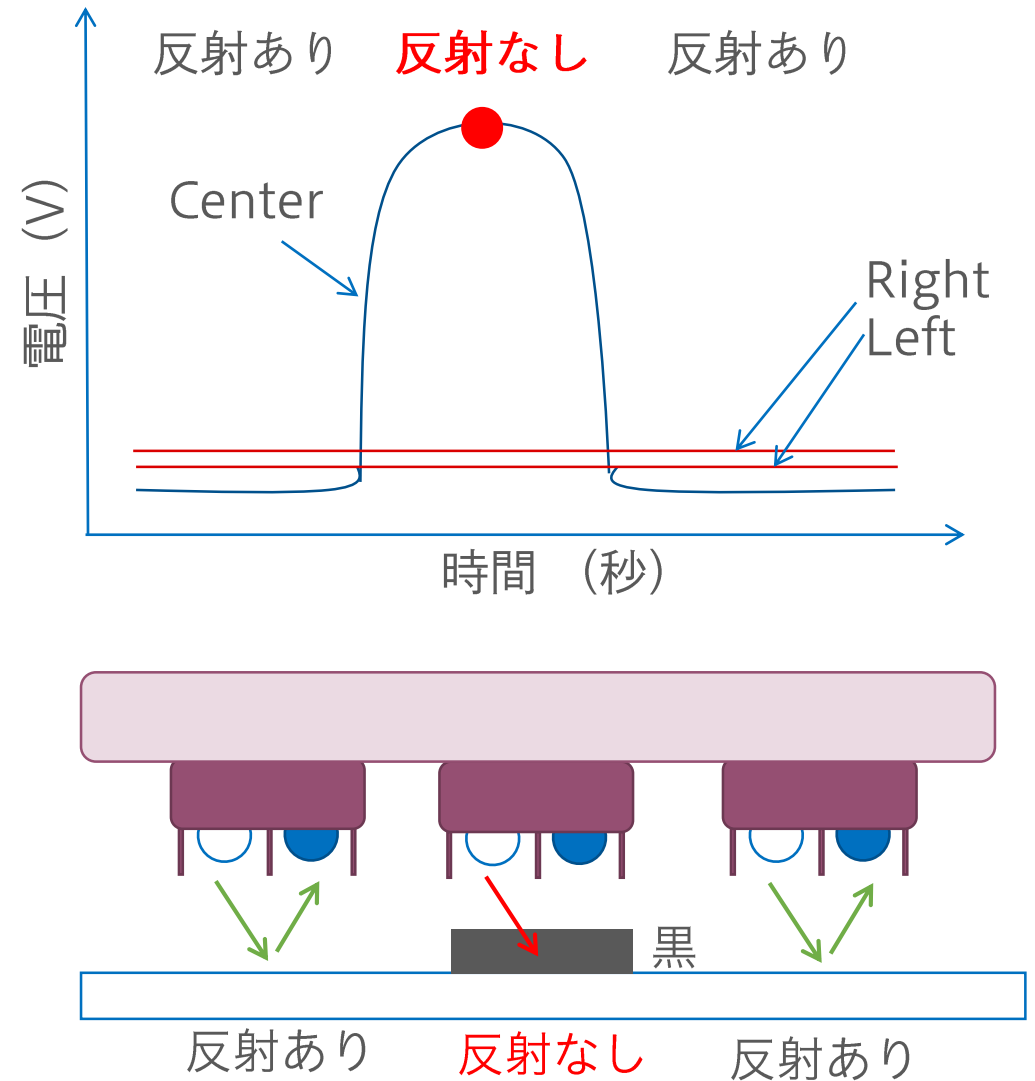
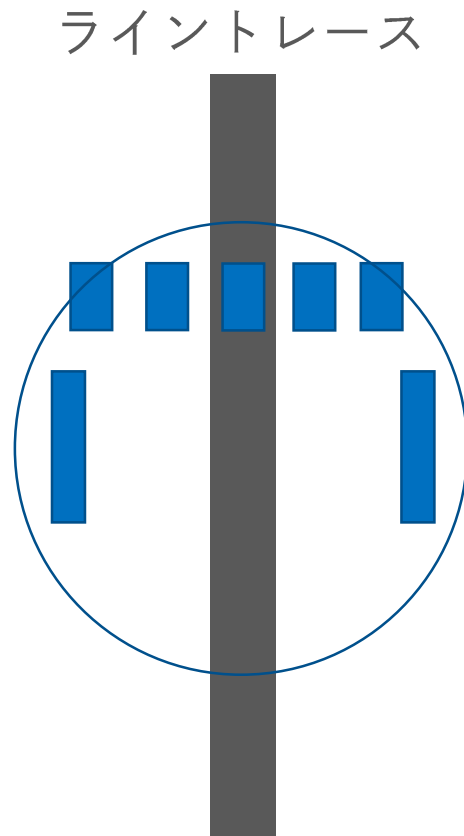
フトリフレクタの動作原理

- ▶ 赤外線を使い、物体の光の反射を用いて計測
 - 反射型と透過型の2種類
 - 検出距離：1mm～10mm程度
 - プリンタ， モーター， スマートフォンなど



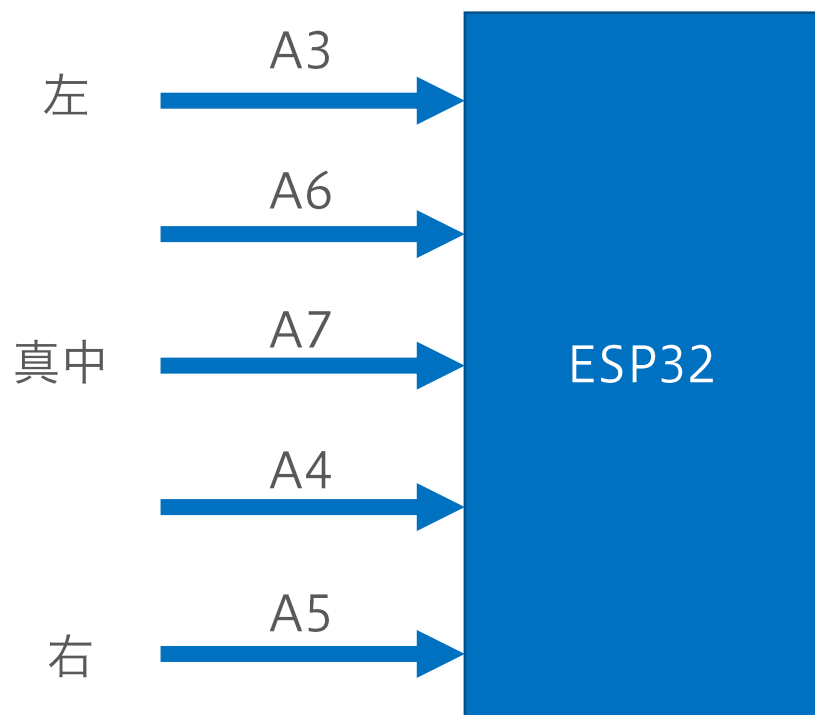
フトリフレクタの応用

- ▶ ロボットの**ライントレース**
 - 線(ライン)の有無の検出



フォトリフレクタの配線

- ▶ フォトリフレクタ5個
- ▶ アナログ端子に接続



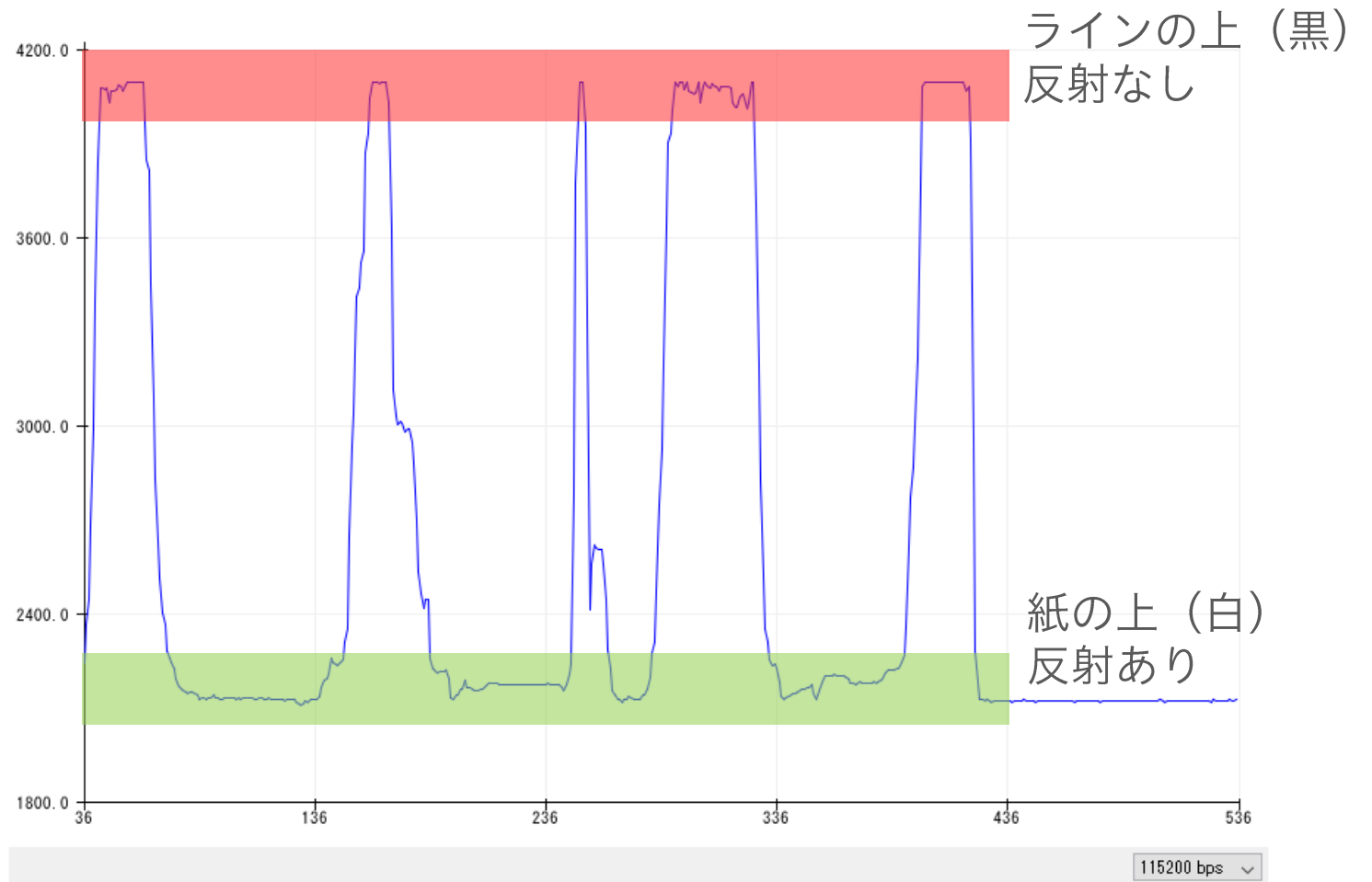
Ex0601 : フォトリフレクタの読み込み(真中)

▶ analogRead関数

- アナログ値 : 0~4095

▶ シリアルプロッタで確認

```
int pr = 0;
void setup() {
  Serial.begin(115200);
  delay(100);
}
void loop() {
  get_pr();
  Serial.println(pr);
  delay(100);
}
void get_pr() {
  pr = analogRead(A7);
}
```

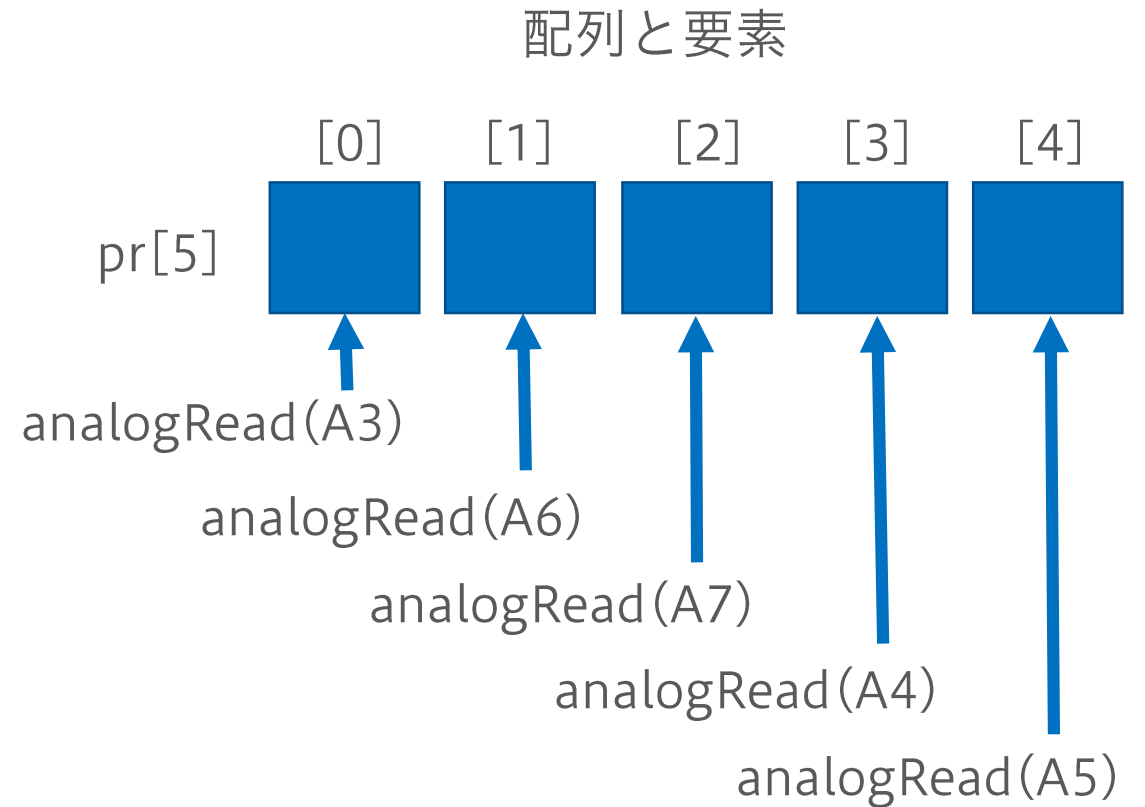


Ex0602 : フォトリフレクタの読み込み(5個)

- ▶ フォトリフレクタ5個をまとめて読み込み
 - 配列を使用

```
int pr[5] = {0}; // フォトリフレクタ5個分の配列
```

```
void get_pr() {  
    pr[0] = analogRead(A3); // left  
    pr[1] = analogRead(A6);  
    pr[2] = analogRead(A7);  
    pr[3] = analogRead(A4);  
    pr[4] = analogRead(A5); // right  
}
```



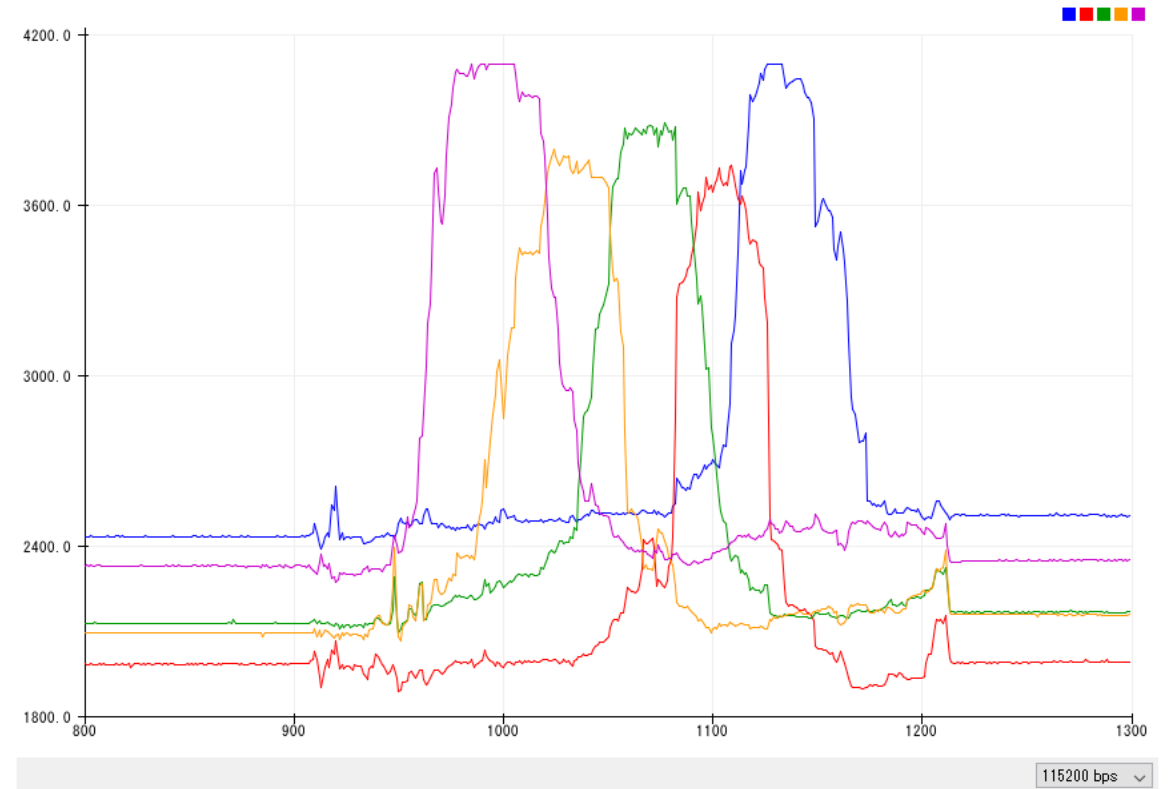
Ex0603 : フォトリフレクタの読み込み(Ex0602改良)

- ▶ フォトリフレクタ5個をまとめて読み込み
 - 配列を使用
 - マクロ定義(#define)
 - forループを使用

```
#define NUM_PR 5 // センサの数
const int pr_pins[NUM_PR] = {A3, A6, A7, A4, A5};
int pr[NUM_PR] = {0};

void get_pr() {
  for (int i = 0; i < NUM_PR; i++) {
    pr[i] = analogRead(pr_pins[i]);
  }
}
```

Ex0602, Ex0603の結果



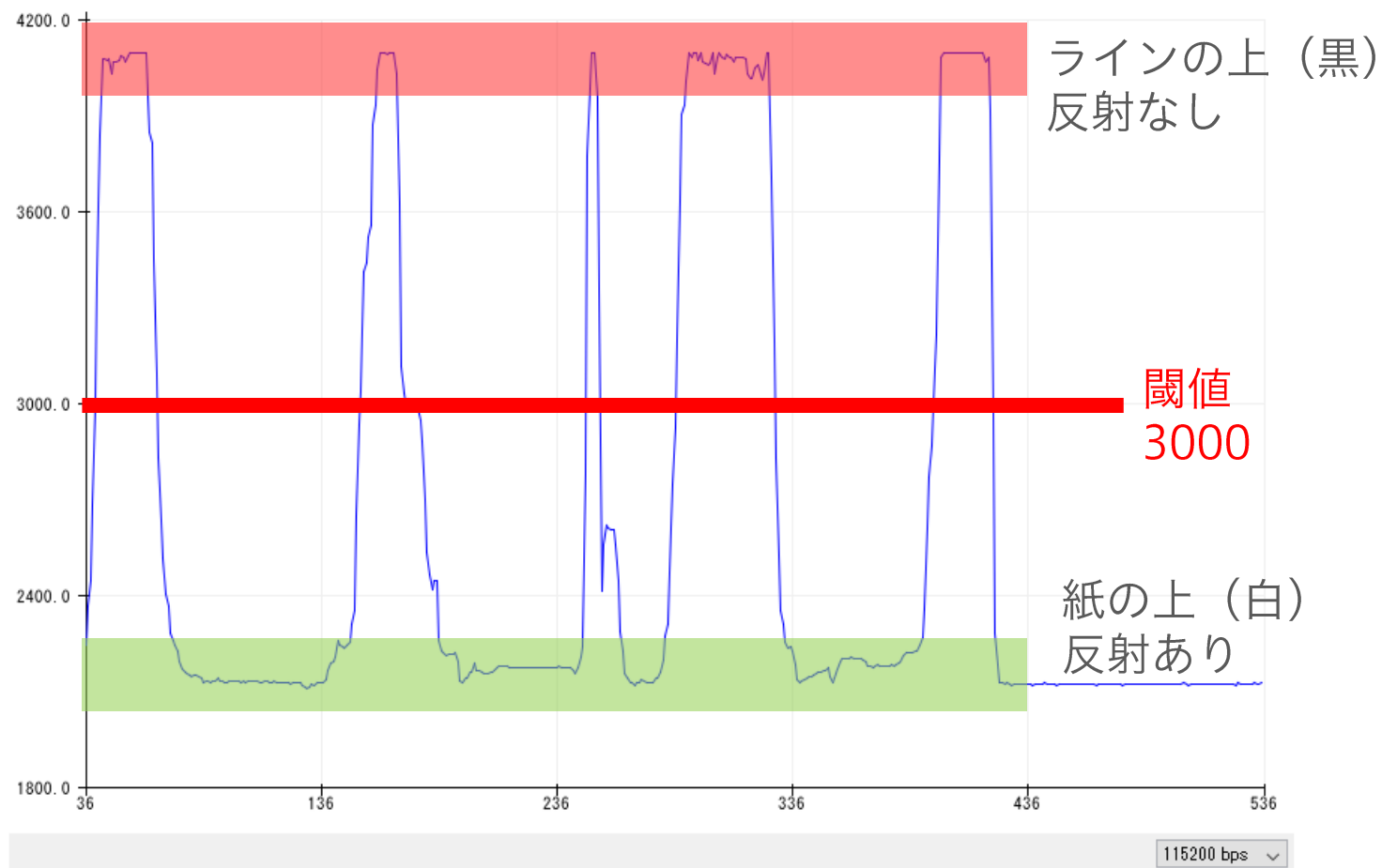
ラインの検出

▶ センサがライン上にあるか？

- ある値(閾値)より大きい → 1
- それ以下 → 0

▶ 0か1の状態にする(2値化)

```
if (pr > 3000) {  
    pr_bin = 1;  
} else {  
    pr_bin = 0;  
}
```



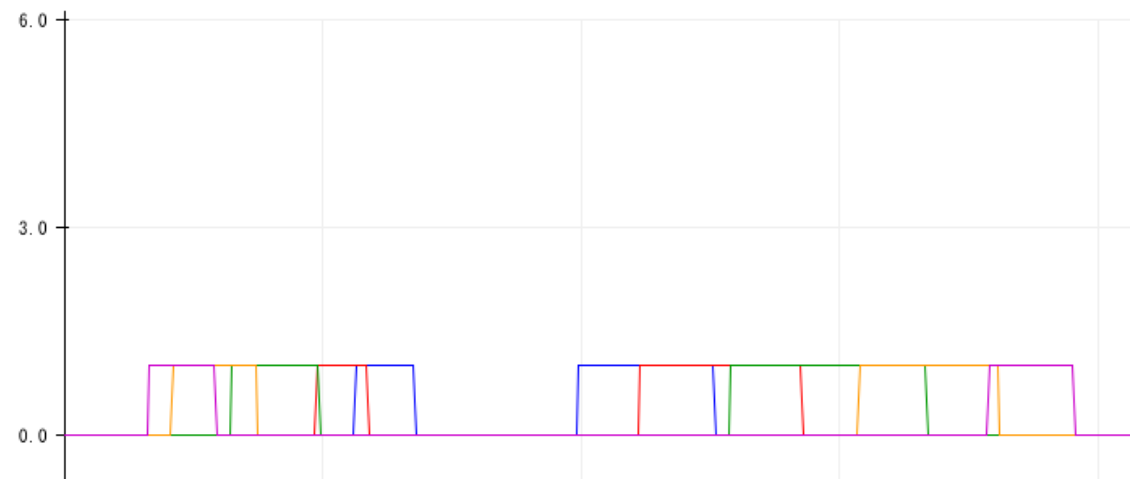
Ex0604 : ラインの検出

- ▶ Ex0603を実行して，閾値(PR_TH)を確認

- ラインの有無 : pr_bin[]

```
#define NUM_PR 5 // センサの数
const int pr_pins[NUM_PR] = {A3, A6, A7, A4, A5};
int pr[NUM_PR] = {0};
int pr_bin[NUM_PR] = {0}; // ラインの有無
const int PR_TH = 3000; // 閾値
```

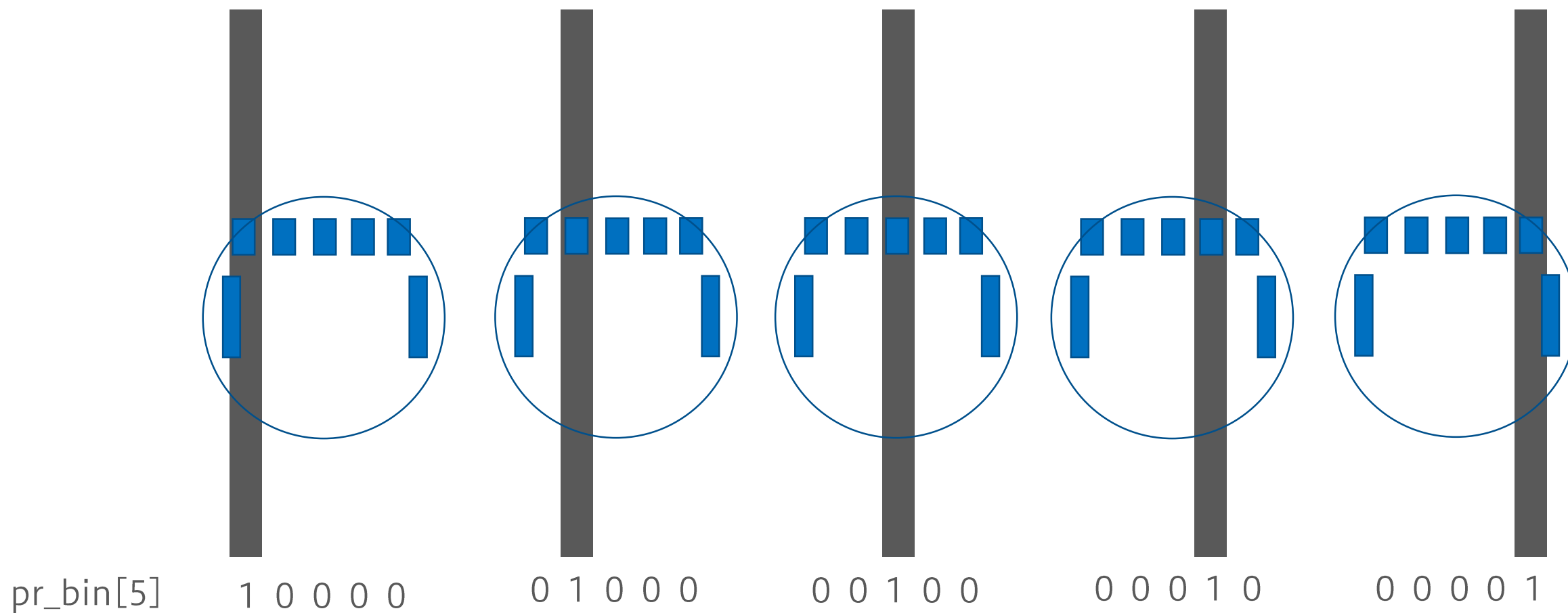
```
void get_pr() {
  for (int i = 0; i < NUM_PR; i++) {
    pr[i] = analogRead(pr_pins[i]);
  }
  for (int i = 0; i < NUM_PR; i++) {
    if (pr[i] > PR_TH) pr_bin[i] = 1;
    else pr_bin[i] = 0;
  }
}
```



実行結果 : ラインを検出すると1
ライン外るとき0

ロボットのラインに対する位置

▶ ロボットがライン(直線)上の何処にいるか？

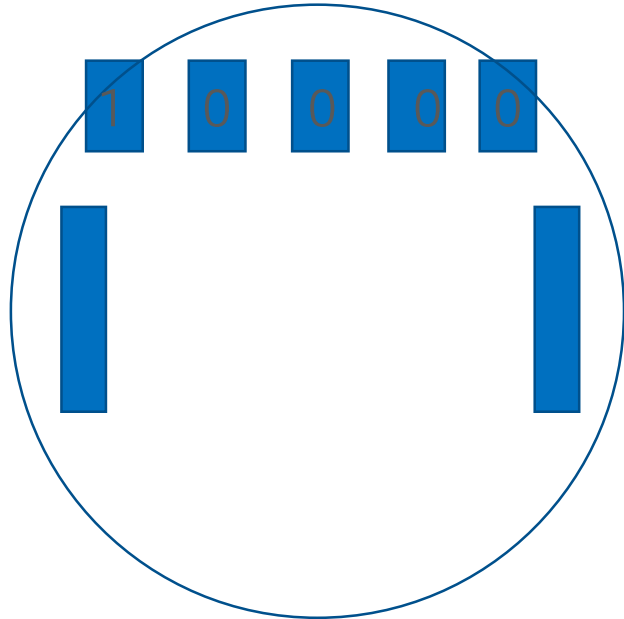


ロボットのラインに対する位置

▶ ロボットがライン(直線)上の何処にいるかを数値で知る

- センサの反応した位置毎に重み付け

pr_bin [0] [1] [2] [3] [4]
重み: x100 x200 x300 x400 x500



ラインの有無(0,1) 反応数 合計

ラインの位置

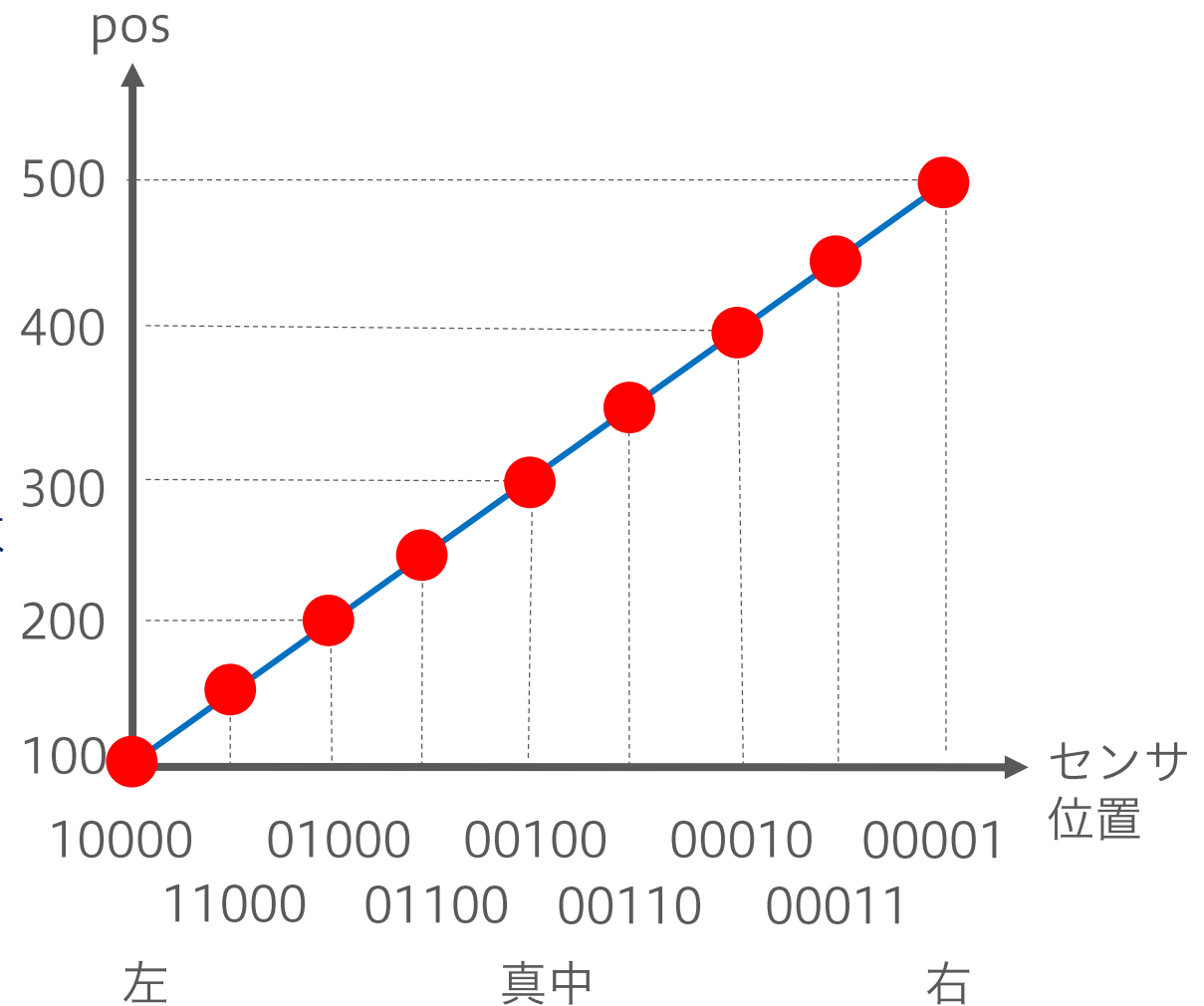
pr_bin	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	n	sum	pos (sum/n)
	0	0	0	0	0	0	0	0 -----
	1	0	0	0	0	1	100	100 (100/1)
	1	1	0	0	0	2	100+200	150 (300/2)
	0	1	0	0	0	1	200	200 (200/1)
	0	1	1	0	0	2	200+300	250 (500/2)
	0	0	1	0	0	1	300	300 (300/1)
	0	0	1	1	0	2	300+400	350 (700/2)
	0	0	0	1	0	1	400	400 (400/1)
	0	0	0	1	1	2	400+500	450 (900/2)
	0	0	0	0	1	1	500	500 (500/1)

Ex0605 : ラインの位置

▶ ラインの位置に応じた値を出力

- ラインあり : 100~500
- ラインなし : 0

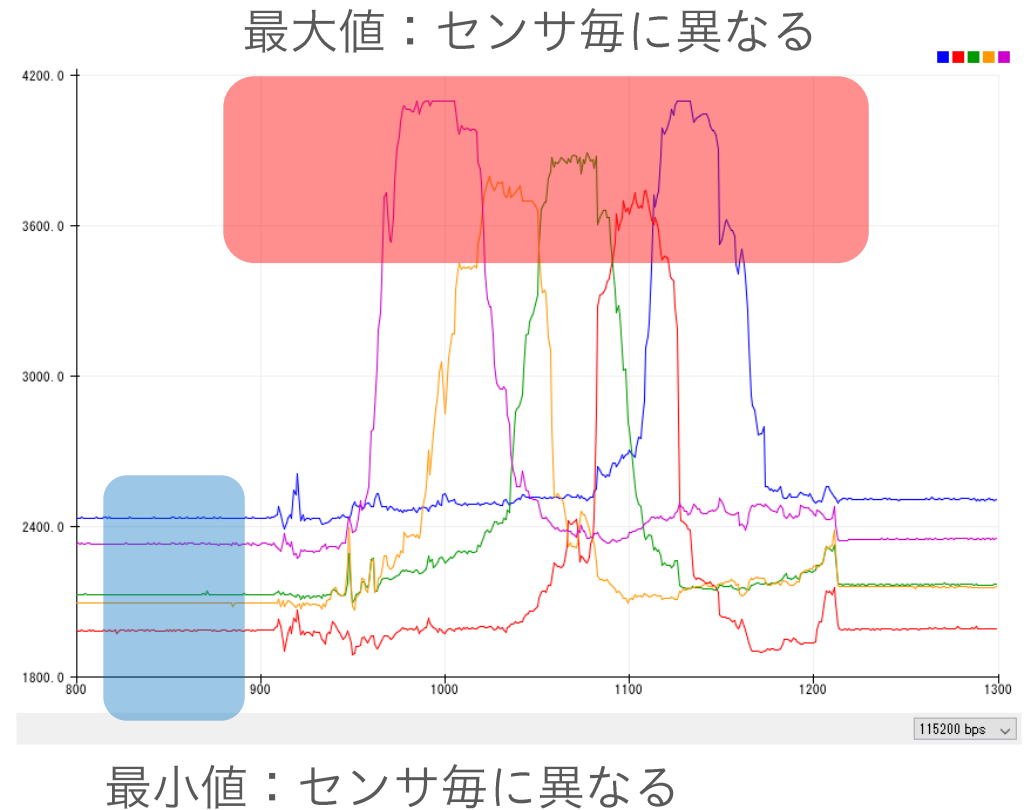
```
int line_pos() {
    int pos;
    int sum = 0, n = 0;
    for (int i = 0; i < 5; i++) {
        sum += pr_bin[i] * ((i+1) * 100);
        if (pr_bin[i] == 1) n++; // ラインを検出した数
    }
    if (n > 0) {
        pos = sum / n; // ライン位置
    } else {
        pos = 0; // ライン未検出
    }
    return pos;
}
```



Ex0606 : ラインの検出(閾値の自動計算)

- ▶ ラインの濃さや周囲の環境によって環境が異なる。
- ▶ ライン検出時に, 最大値と最小値を探す
- ▶ (現在の値 - 最小値) / (最大値 - 最小値)
- ▶ 正規化 : 0~1.0
- ▶ 閾値 : 0.6

```
int pr_min[NUM_PR] = {4095, 4095, 4095,  
                     4095, 4095}; // 最小値  
int pr_max[NUM_PR] = {0}; // 最大値  
  
for (int i = 0; i < NUM_PR; i++) {  
    if (pr[i] < pr_min[i]) pr_min[i] = pr[i];  
    if (pr[i] > pr_max[i]) pr_max[i] = pr[i];  
}
```



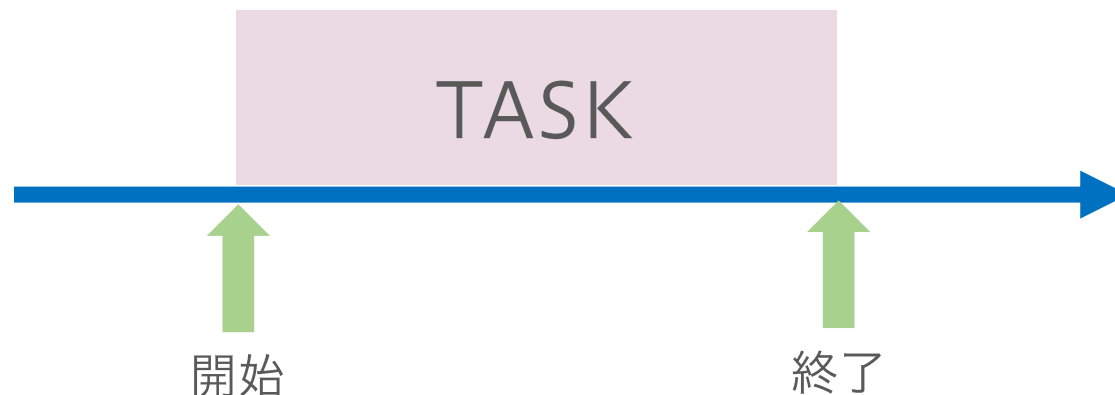
ロボットをスムーズに動かすために

- ▶ センサ読み込み, データ処理, モーター駆動などには時間がかかる。
- ▶ それぞれ, どのくらい時間を要するか millis, micros関数を使って計測してみよう。

開始 → unsigned long st = millis();

```
    . . .  
    Do something task  
    . . .
```

終了 → unsigned long en = millis();
Serial.println(en - st);



ロボットのライントレース

- ▶ ロボットをライン(黒)に沿って走らせる
 - センサでラインの位置を確認して
 - 左右のモーターの回転速度を調整

